

人生を占うとき

年末の1秒と年始の1秒。

去り行く年の集大成と新たな年の記念すべき第一歩。

去年からどうやって年をまたごうかと考えていた。

- ・前期の成績が良くなかったから、その2秒は勉強しよう！
 - ・今年こそ元旦0時00分00秒に年賀メールを送ろう！
 - ・たまには地球上に居たくないから、その2秒は空中に居よう！
- などなど、色んな事を計画しては楽しんでいた。どれもそれなりにおもしろそうな話だと自己満に浸ってもいた。

年越しの番組を見ながら、時計を気にしながら、その時を待っていた。段々とその時が迫ってくると、僕の注意を引きそうな物を全て遮断した。部屋は完全に静まり返っていた。計画は万全を期していた。あと10分。…あと8分。…あと5分少々。…

「…ヒマだ。」そう思ったが最後。もうじつとしていられない。「あと5分あるから歯でも磨いておくか。」

パンパンパン！神社が元旦を知らせる花火を打ち上げたようだ。

結局、その時は暇つぶしの最中に…（想像に任せます）。

偶然？

最近いろいろ世間で騒がれているノロウイルス。この菌、どうやらかなり強力らしく、集団感染して何十人もの人が一気に嘔吐して病院に運ばれています。老人がかかった場合などは死亡に至ることもあるようです。

これだけ怖いノロウイルスですが、「怖いウイルスがある」ということが分かっているだけ、かなり「まし」といえます。つまり、原因不明で何十人もの人が吐き続けているとしたら……かなり怖いですね。

なにも分からない時代だったら、神様にお祈りを始めたり、生け贄をささげようと村で相談したりするのもかもしれませんね。つまり、現代に生きる私たちは、病気が細菌やウイルスによって生み出されているということを知っているから、いろいろな有効な対処ができるのです。

このある意味当たり前の事実が実証されるには、細菌が見つけられる必要性がありました。今回はそんな細菌を初めて見つけた人のお話です。

実は、細菌の第一発見者は、かの有名な細菌学者のコッホではありません。かといって、「近代細菌学の開祖」と並び称される、パスツールでもないのです。

こういうすごい発見をしたのに、あまり有名なじやないなんて意外ですが、それもそのはずで、最初に見つけた人は、商人だったのです。つまり、言ってしまうえば、アマチュアの生物学者とも言いましようか、ただの人だったのです。

その人、レーウエンフックは、1632年オランダに生まれました。彼はほとんど教育らしい教育も受けたことがありませんでした。時代が時代なので、それも当たり前のことでした。彼は、織物店の店主をやっていたのですが、かつて修行をしていた時に、虫がねで織物の検査をする仕事をやらされていたことから、ミクロの世界に興味を抱くようになっていました。自らめがね屋に通っては、レンズの磨き方を教わり、金物細工の技を盗みました。そうやって、独学できわめて簡単な顕微鏡を造り上げました。しかし、簡単な構造のものを作ったとは言ってもその拡大力は、270倍に達していたようです。

彼はそのような手作りの顕微鏡を使って、歯垢や汚水などの検査をしては、いろいろな形をした細菌を視て独りで楽しんでいました。彼は毎朝食塩で歯を磨いていましたが、それでも口の中に細菌が生活しているといっっては喜んでいましたようです。

ある老人が、生まれてこのかた、歯を磨いたことがないというのを聞いて、「おお、その臭い口の中には、さぞ色々な細菌が繁殖しているだろう」とワクワクしながらその歯垢を分けて貰い、すぐに自分で作った顕微鏡を用いてのぞいていたそうです。

……訂正します。「かなり変わった」一般人だったようです。

つまり、いわゆるただの趣味が高じて、現代にかなり重要な発見をしてくださったのです。どこの世の中にも変態さんは居るものですが、これだけ役に立った変態さんも初めてなのではないでしょうか。

しかし、変態だったのが悪かったのか、彼の発見は、「空想力豊かな物好きの遊び」と言われ扱いを受け、およそ200年もの間、あまり注目を受けませんでした。やっと19世紀になってから、微生物という考えが浸透し、彼の発見が認められるようになったのです。

現代の医学を支えているのは、学者の発見、ではなく、「かなり変わった」一般人の趣味による発見です。なんだか、そう考えるとすごくありがたみが無いように思えてしましますが、この文章だって書きようでいくらでも印象が変わってしまうもの。何を発見したのか、その事実が重要なのです。

というなら、こんなエピソード拾ってくるなって話なんですけどね。

1 初日の出 7位 1富士

地球的な広がりの中で想像するキリバス。すがすがしい今年の読み初めです。

サモアとの対比にユーモアも含まれ、トリビアにとどまらない、爽やかトークでした。

2 元日の朝に 8位 0富士

同じく爽やか朝日。こちらは体験談風で、実話かなと思える臨場感でした。

やったぜ、と達成感は眩しく伝わってくるけれど「小汚い埠頭」って、どこ？ とか、細かな情報がもう少しあると、もっと近寄れそうです。

イチオシフレーズ：「早く着てくれ」

3 どうしても、超えたいもの。 6位 4富士

さわやかシリーズ続行中。自転車のあとは泳ぎって何かの競技みたいですが。

背泳ぎの具体的な描写とともに、まっすくなひたむきさが伝わってくるのですが、これもディテールがもう少し欲しいところです。

彼との縮まりゆくタイム差の具体的数値とか、たとえば旗の色とか。あ、この人、水泳知ってる、と思わせるような描写がピンポイントであると、ぐっとインパクトが増すのでは。

4 "for adults..." 3位 12鷹

さわやかシリーズ続く、と思いきや？ まあ、ラストを少年で締めたあたり、さわやかなのかも。

核心に鎮座する「ソレ」についての描写を完全スルーは、やっぱり読者として物足りないです。不快感を与えずに、どう表現するか、も勝負どころか、と。

レイアウトをストーリーの区切りで分けるというアイディアはユニークでしたね。上下等分に慣れた目には新鮮でした。

5 初力ノ 4位 6富士

ラスト一行が死体の重たさでぐさり。

こんなにどんより暗い話なのに、どこにでも誰にでも起こりうる日常的なできごとなんだよ、と突きつけてくる迫力で、人

の性（さが）の悲しさに、しばし考え込んでしまいました。

タイトルを含め、ムダなものが何一つない鮮烈さに学びたいと思います。

6 初雪と…… 4位 6富士

「高度計」まで来て、残りの展開は読めました。それほどに分かりやすい、予想通りのストーリー。それでも、がんばれ！と応援してしまうのは、パラシュート降下のていねいな描写のおかげでしょう。こんなこと、ゼーゼーッタイにありえないけれど。

そう、あり得る感を増すには、自衛隊じゃなくて、よその国のよその軍隊にしたほうが良かったのでは。いやいやべつにすぺいす大佐待望論ではありません決して。

イチオシフレーズ：「初雪といっしょに、彼が降ってきた」

7 ある少年の初恋 8位 0富士

八百屋お七男性版。自ら火を点けて難民になりました、と読んだのですが、少し違っていたようで。

全く罪悪感をおぼえない少年の純愛がいつそ潔く感じられて、不思議と倫理的嫌悪感を消してしまう。まさに恋は盲目。

タイトルだけ外から視点なのは統一しても良かったのでは。「あの娘」とか。

8 「お兄ちゃん、私の『はじめて』もらってくれる？」 8位 0富士

そこで、にっこりクッキーをほおばるお兄ちゃんじゃなくちゃ。

討ち死にカクゴのレギュラー投稿。その蛮勇に拍手！ していいのか？ いいのでしょうかたぶん。

各賞総なめの快挙、**おめでとう！**

イチオシフレーズ：「おっき」×2 「ごめんなさい」×2
でイチオシフレーズ大賞もさらいました。

9 みっしょん いんぽっしぶる 2位 15鷹

6歳児って、こんなモノイイするかなあ、とちょっと気になりましたが、そんなマセガキぶりも面白いでした。レタスと思いこんでキャベツを買って帰ったとか、もう一波乱あると夕陽の眩しさがより目にしみるのでは。

8のインパクトのあと、という位置どりにもめげず首位に1「鷹」差と迫る2位、快挙快挙。

イチオシフレーズ：「かかった。」

10 少年の挑戦 1位 16なすび

うらやましいな、この男子校の熱さ。特にゴチック動詞4連発で攻めてくるくだりの盛り上がりが最高です。
「暖めておいたぜ」、さすが漢。万雷の拍手を幕引きのあとに!!!
イチオシフレーズ：「ぬ～げ！×4」

惜しい1 人生を占うとき

あっけなく過ぎてゆく時の流れ。人間が勝手に決めたことなんて知らん顔。
そんな容赦なさが飾らず語られて、親しみやすく読めました。ブログ気分といったところ。

惜しい2 偶然？

変態さんが作った細菌学。ネタよし、包丁さばきよし、味よし。どうぞご賞味あれ。
惜しいのはラスト1行で読者への甘えが出てしまったところ。本格派コラムらしく、堂々と終わって欲しかった。

祝 今週の受賞作品

班名	賞タイトル	作品番号
Q E D	妹の本賞	8
fiRst	実話っぽいで賞	1 0
SANTA	おませで賞	9
TT	いじめはやめま賞	5
愛とU気	ちゃんと作ってから言いにきま賞	8
Vodafone	第四回小学生賞	2 8
W	まだまだ甘いで賞	1 0
Xrated	あやまれ！ とにかくあやまれ！	8
Y	妄想大暴賞	8
dz=（以下略）	第八戒大学綾田賞	1